

平成26年6月20日

ALIC/USMEF 定期情報交換会議の概要について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、米国食肉輸出連合会（USMEF）と定期情報交換会議を開催しました。

本会議は、日本、米国の食肉の需給状況等について意見交換を行う場として両国において、原則として毎年度交互に開催しており、今回で通算29回目となります。

なお、今回は、同時期に中国・北京市で開催された国際食肉事務局（IMS）主催の第20回世界食肉会議に併せて同地での開催となりました。

1 日 時：平成26年6月17日(火) 15時～18時

2 場 所：中国・北京市

3 参加者

ALIC 佐藤 純二 理事長
強谷 雅彦 総括理事
調査情報部（横田上席調査役、山神）

USMEF フィリップ・M・セング 会長
サッド・ライブリー 首席副会長
ジョエル・ハガード 首席副会長
エリン・ボロアー エコノミスト
トラビス・アープ 技術サービスマネージャー
原田 晋 シニア・ディレクター

4 会議内容

セング会長と佐藤理事長の挨拶の後、USMEFから米国の食肉需給について、ALICから日本の食肉需給について説明し、意見交換を行った。

<USMEFからの食肉需給についての説明概要>

牛肉

- ・ 2011、12年に発生した干ばつの影響により、肉牛飼養頭数が減少したことから2014年の牛肉生産量は前年比5%減の見込み。
- ・ 牛肉生産量が減少する中で、国内需要や輸出需要等を背景に牛枝肉価格は高水準で推移しており、EUの価格水準と同レベルにまで到達。
- ・ 2014年の牛肉輸出量はアジア向け輸出を中心に前年比8%増の見込み。
- ・ また、同年度の牛肉輸入量も低級部位を中心に前年比1%増の見込み。

豚肉

- ・ 豚流行性下痢（PED）の流行により、1回当たりの子豚出生頭数が減少し、2014年1月時点では2009年の水準（平均9.5頭）に下落。
- ・ 国内の豚肉と畜頭数は前年水準を下回っているものの、安い飼料穀物価格を背景に肉豚1頭当たりの重量が前年比13%増となっていることから、米国農務省（USDA）は今年の豚肉生産量を前年比1.5%減と予測。
- ・ 豚肉生産量は今年第3四半期（7～9月）を底に増加に転じるとの見通し。
- ・ 豚肉の先物取引価格も、今年8月を頂点に下落に転じると予想。

<ALICからの食肉需給についての説明概要>

日本の直近の牛肉および豚肉の需給動向、和牛の輸出戦略等について説明。

(問い合わせ先)

担当者：調査情報部 横田、山神

電話番号：03-3583-9804、9532